

平成24年度県立高等学校入学者選抜の結果について

平成24年度県立高等学校入学者選抜は、全日制課程の推薦入学面接が2月10日（金）、学力検査が3月7日（水）、また、定時制課程のフレックス特別選抜が3月7日（水）、学力検査が3月19日（月）に実施された。これらの受検・合格状況は下の表に示したとおりである。

1 生徒募集定員の総枠について

平成24年3月の県内中学校卒業見込者数（前年比73人の増）を考慮し、全日制課程の定員を12,595人（前年比40人の増、延べ1学級の増）とした。

2 平成24年度入学者選抜について

(1) 推薦入学

推薦入学については、全日制課程の高校57校119系・科で実施され、実施しない高校は2校2科であった。推薦入学においては学力検査を行わず面接をもってこれに代えるものとしているが、40校90系・科では作文を課しており、16校24科では、小論文を課している。

(2) 傾斜配点、面接等

昭和61年度から学力検査の評価方法の弾力化を図り、教科内傾斜配点を実施して

いる。実施については、各学校・学科の特色及び入学後の生徒の進路等を配慮して決めるものであるが、今年度の実施校は3校3科であった。教科別にみると、国数英の3教科を実施したのが2校2科、国数英社の4教科を実施したのが1校1科であった。また、小山高校と黒磯南高校の各専門学科については、昨年度と同様に、特定の教科の得点を1.5倍する教科間の傾斜配点を実施した。

学力検査受検者に対する面接は平成元年度から導入しているが、今年度は26校84系・科で実施した。

海外帰国者・外国人等の受検に関する特別措置については、推薦入学と同時に行う特別選抜検査で30名が合格した。

定時制課程において、満20歳以上の志願者について学力検査を行わず、作文をもってこれに代えることができる制度では、3名が合格した。

以下、各教科ごとの学力検査問題（全日制）について、出題の方針及び結果の概要について述べる。なお、各問の正答率は全日制課程10校から1,000名を抽出して調査した結果であり、完全正答者についての割合である。

<表> 学力検査 受検・合格状況の推移

| | 平成24年度 | | | | 平成23年度 | | | | 平成22年度 | | | |
|------|--------|--------|---------|------|--------|--------|---------|------|--------|--------|---------|------|
| | 全日制 | | 定時制 | | 全日制 | | 定時制 | | 全日制 | | 定時制 | |
| | 推薦入学 | 学力検査 | フレックス特別 | 学力検査 | 推薦入学 | 学力検査 | フレックス特別 | 学力検査 | 推薦入学 | 学力検査 | フレックス特別 | 学力検査 |
| 募集定員 | 12,595 | | 640 | | 12,555 | | 640 | | 13,115 | | 640 | |
| 受検人員 | 2,692 | 12,049 | 157 | 315 | 2,736 | 12,018 | 214 | 434 | 3,030 | 12,945 | 172 | 410 |
| 受検倍率 | 0.94 | 1.21 | 1.31 | 0.59 | 0.96 | 1.22 | 1.78 | 0.83 | 1.00 | 1.25 | 1.43 | 0.79 |
| 合格人員 | 2,403 | 9,834 | 111 | 309 | 2,490 | 9,756 | 120 | 397 | 2,633 | 10,290 | 120 | 396 |
| 合格倍率 | 1.12 | 1.23 | 1.41 | 1.02 | 1.10 | 1.23 | 1.78 | 1.09 | 1.15 | 1.26 | 1.43 | 1.04 |

※ 受検倍率＝受検人員÷定員， 合格倍率＝受検人員÷合格人員

出題の方針

- 1 中学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、中学校国語科の指導内容に即し、基本的な言語事項に関する能力、表現する能力、理解する能力を総合的に評価できるようにした。
- 2 生徒の多様な学力の実態に応じ、言語事項についての知識とその理解の程度を評価できるようにした。
- 3 生徒の学習や日常生活に関連があり、内容に偏りのない平易な文章を読んで、表現者の立場や考え方をとらえ、あるいは作品の描写や登場人物の心情などを読み取るなどして自分の考えをまとめて、表現する能力を評価できるようにした。
- 4 古典については、親しみやすい内容の古典を素材にして、基本的な読む能力を評価できるようにした。
- 5 作文については、表現の違いに触れながら、自分の考えを、理由を明確にして適切に書く能力を評価できるようにした。

結果の概要

1 は、言語事項に関する知識と理解度、言語感覚の確かさや言語運用能力をみるものである。言語事項の単なる知識にとどまらず、言葉の意味やきまりを確認する機会を通して、言語生活の向上に役立ててほしいということ願って出題した。

1 漢字の読みの問題は、平均正答率は89.9%、**2** 漢字の書きの平均正答率は60.6%であった。漢字の読みでは、(1)刻む、(2)節約、(3)眺めるが正答率9割を超えたが、(4)割愛は68.9%であった。書きでは(1)保つが9割、(2)告げる、(3)豊富がともに正答率7割を超えたが、(4)優勢が36.5%、(5)採寸が29.9%と低かった。日常生活で使用できる語彙を広げるためにも、漢字学習の重要性を確認することが必要である。

4 慣用的な表現、**7** 和歌の季節の問題はいずれも高い正答率であり、**5** 紛らわしい表現及び**6** 書写に関する問題は6割程度の正答率であった。また、**3** の単語に区切る問題については45.6%と低かった。日本語全般に関して、幅広く問題意識を持って学習に取り組みたい。

2 は、「宝物集」を素材として出題した。金三十両を仏に寄進した絵師の行いが一時は妻の怒りを買うが、のちに信心深さが報われるという内容の話である。仮名遣い、動作の主体(主語)、文の意味、内容の把握などを問う、昨年とほぼ同様の問題を設定した。

2 の主語の問題が30.9%、**3** の「なにか持て来た」と発言する妻の意図を記述する問題が12.5%と低い完全正答率であった。**5** の筆者の考えを問う問題が64.9%と、文章全体の内容の理解が要求される設問への正答率は昨年よりも高かった。

主語が省略される古文の特徴を踏まえ、行為や動作の主体をおさえ、話の流れを概括する学習や、登場人物の考えを把握する学習などを継続したい。また、言語文化を継承するという観点からも、古文固有の言葉に注目し、古文特有の話の面白さを味わう

など、多くの古典に親しむ機会をもち、現代に息づく古典の価値を理解することが大切である。

3 は、小浜逸郎「大人問題」を素材として出題した。年賀状交換を一例として、こうした儀礼的行為によって、私たちの社会的な人格が確認されると論じており、読書の意義を扱った昨年度のものとは比べやや抽象度の高い文章であった。

1 の空欄に入る語句を選択する問題は、正答率が97.7%と高かった。**5** の段落の関係を問う問題が49.8%と、昨年度の段落の特徴を問う問題と比べて低かった。**6** の本文の特徴を問う問題は75.1%の正答率であった。

4 の「人格が成立する」ときを記述する問題は完全正答率が13.5%と低かった。

前後から文を単に抜き出したり、書き換える程度の解答が目立ったが、答えるべき内容を簡潔な言葉でまとめる表現力が求められている。

説明的な文章は、主張と具体例を区別して読んだり、根拠を抜き出したりするなどして、筆者が何を言いたいのか、全体的な要旨を正確に読み取る力を養っていく必要がある。併せて、読み取った内容を自分の言葉でまとめたり、話し合ったりするなどして、他の言語活動との関連を深めたい。

4 は、内海隆一郎「大づち小づち」を素材として出題した。主人公が受検者と同世代であるため比較的読みやすいが、受検者の主観によらず、場面設定やそれぞれの人物の心情や言動をきちんと捉えながら読み進めていくことが要求される。

1 の主人公の思いを問う設問は68.0%、**2** の周囲の人々の様子を問う設問は89.4%であった。一方、これら選択問題の正答率が高いのに対して、先輩の主人公に対する扱いの変化について問う**4** は42.9%であり、また、主人公の思いを説明する記述問題の設問**5** は12.3%と完全正答率が低かった。**5** の設問においては、単なる文の抜き出しではなく、自分の言葉でまとめる必要がある。

文学的な文章は、各自の様々な読みの交流を図ることも大切であるが、解釈の妥当性を検証し合うような学習が必要となる。判断の根拠を探して話し合ったり、表現や描写をもとにして意見を述べたりといった学習活動によって、確かな読みにつなげていきたい。

5 の作文は、生徒会があいさつ運動を進めるために掲示物を作成するに当たって候補となった、A、Bのいずれかの表現を受検者が選択し、表現の違いに触れながら、選択した理由を説明するものであり、これらの内容を適切に書く能力を評価するものである。

表現の特徴を指摘したり、表現がそれを見る者に与える印象や効果等を説明しながら、自分の考えを記述することを求めている。普段の生活の中において、言葉に対する意識を高め、言語感覚を磨くとともに、自分の意見を表現する訓練をしておきたい。

また、授業の中では、「話すこと・聞くこと」「読むこと」との関連において、事実と意見の区別や、根拠や理由の整理、効果的な表現などについて確認し、書く過程の学習の充実を図ることで、自ら考え、表現する力の向上を目指したい。

(全日制課程10校から1,000名を抽出して集計)

| 問 | | 題 | 正答率 | 問 | | 題 | 正答率 | 問 | | 題 | 正答率 |
|---|---|--------|--------|--------|---|------------------|----------|---|------------------|--------|-----|
| 1 | 1 | (1) | 99.6 % | 2 | 1 | 95.3 % (95.3) | 4 | 1 | 68.0 % | | |
| | | (2) | 99.5 % | | 2 | 30.9 % | | 2 | 89.4 % | | |
| | | (3) | 99.2 % | | 3 | 12.5 % (17.2) | | 3 | 61.0 % | | |
| | | (4) | 68.9 % | | 4 | 48.5 % | | 4 | 42.9 % (42.9) | | |
| | | (5) | 82.2 % | | 5 | 64.9 % | | 5 | 12.3 % (73.3) | | |
| | 2 | (1) | 91.1 % | 3 | 1 | 97.7 % | | 5 | 6 | 75.5 % | |
| | | (2) | 71.6 % | | 2 | 63.0 % (67.9) | (98.7 %) | | | | |
| | | (3) | 73.7 % | | 3 | 72.5 % | | | | | |
| | | (4) | 36.5 % | | 4 | 13.5 % (60.9) | | | | | |
| | | (5) | 29.9 % | | 5 | 49.8 % | | | | | |
| | 3 | 45.6 % | 6 | 75.1 % | | | | | | | |
| | 4 | 89.8 % | | | | | | | | | |
| | 5 | 66.2 % | | | | | | | | | |
| | 6 | 54.6 % | | | | | | | | | |
| | 7 | 90.9 % | | | | | | | | | |

※ () 内は部分正答も含めた割合

社 会

出題の方針

- 1 中学校学習指導要領の趣旨を踏まえて、地理・歴史・公民の各分野から相互の関連にも留意して出題した。
- 2 基礎的・基本的内容を3分野から取り上げて出題し、社会的事象に関する基礎的理解や思考力、判断力、表現力等をみるようにした。
- 3 3分野の総合問題として [2] を出題し、社会的事象を諸資料に基づいて多面的・多角的に考察する力をみるようにした。
- 4 各分野ごとに論述問題を出題し、社会的事象に対する見方や考え方と、それを整理し表現する力をみるようにした。
- 5 地図・統計・写真・年表等を正しく読み取る力、それらをもとにして考察し表現する力をみるようにした。

出題分野・解答形式別の問題数・配点の内訳

| | 地理的 分 野 | 歴史的 分 野 | 公民的 分 野 | 合 計 |
|-----|------------|------------|------------|---------|
| 選 択 | 7(14) | 7(14) | 4(8) | 18(36) |
| 記 述 | 4(8) | 7(14) | 6(12) | 17(34) |
| 論 述 | 2(8) | 2(8) | 3(12) | 7(28) |
| 組 み | 1(2) | 0(0) | 0(0) | 1(2) |
| 合 計 | 14(32) | 16(36) | 13(32) | 43(100) |

() 内の数字は配点

結果の概要

[1] は、広く地理、歴史、公民の各分野についての基礎的、基本的な知識及び理解度をみるようにした。全体的に正答率は高かった。

[2] は、戦後の日本の交通・運輸に関する変化について、生徒が聞き取り調査をするという設定で、地理、歴史、公民の各分野にわたる理解度をみた。1では、サンフランシスコ平和条約の締結前後の世界や日本の動向を問う問題であったが、正答率は3割程度であった。論述問題の5では、資料から必要な情報を正確に読み取るための思考力や判断力をみる問題であ

たが、複数の情報を活用するまでに至らない解答が多くみられた。

[3] は、日本の中部地方を通して日本の地形・農業・工業の地域的特色について理解の程度をみる問題である。1の(4)では、日本の工業立地の特徴が把握できているかどうかを問う問題であったが、正答率が3割程度であった。学習指導要領では「国内では地域の環境条件を生かした多様な産業地域がみられること、環境やエネルギーに関する課題などを抱えていることを大観させる」とあり、理解しておきたいことである。論述問題の2は日本の果実の自給率に関する問題で正答率は7割を超えた。

[4] は、世界地理に関する問題である。1・2は地球儀や世界地図を活用して、地球的規模での位置関係をとらえる基礎的な知識を問う問題であり、比較的正答率は高かった。論述問題の5は、昼の時間の長さから都市の緯度の関係を資料から読み取る問題であったが、時差の問題と取り違えている誤答が多かった。

[5] は、土器や陶磁器の歴史を素材にして、諸外国との交流を軸に、古代から近世までの歴史的事象の理解度をみた。論述問題の2は、平城京からの出土品をもとに奈良時代の税制を問う問題であった。単に知識を問うものではなく、問題文をしっかりと読んだ上で、そこから考察して正解を導くことが求められている。

[6] は、明治以降の歴史についての問題である。1は、年表中のある時期に当てはまる歴史上のできごとを選ぶ問題で、正答率は35.3%であった。詳細な年代や内容の理解を求めるものではなく、各事象を歴史の大きな流れや歴史的背景の中でとらえていく学習が今後とも望まれる。論述問題の3(2)は、資料から読みとったことと学んだ知識を活用して表現する力をみたが、正答率は15.8%と低かった。資料を通して歴史的事象を多面的・多角的に考察する力を養っていくことが必要である。

[7] は、公民的分野のうち、政治や司法について問う問題である。論述問題の1(2)は、衆議院の優越について正しく理解しているかを問う問題であった。正答率は10.9%と低く、衆議院の記述がなかったり、3分の2以上の賛成により可決されることが書かれていなかったりと、正確に説明できた解答は少なかった。

[8] は、経済、地方自治、環境問題、雇用問題など現代社会の課題を考察する問題である。5(2)は、いわゆる「M字曲線」の資料から、女性の就業率の特徴や変化を読みとる論述問題である。問題文に指示されていることを正確に読みとって、表現することが求められたが、完全な正答に至った解答は少なかった。

社会学力検査結果集計表

(全日制課程10校から1,000名を抽出して集計)

| 問 題 | | 正答率 | 問 題 | | 正答率 | 問 題 | | 正答率 | | | |
|-----|---|------------------|------------------|-----------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|-----------------|------------------|
| 1 | 1 | (1) | 70.6 % | 3 | 1 | (1) | 35.4 % | 6 | 1 | 35.3% | |
| | | (2) | 73.4% | | | (2) | 85.7 % (86.1) | | 2 | 61.1% (77.4) | |
| | | (3) | 91.3 % | | | (3) | 89.1 % | | 3 | (1) | 49.1 % (50.4) |
| | | (4) | 61.5 % | | | (4) | 37.7 % | | | (2) | 15.8 % (69.9) |
| | 2 | (1) | 58.8 % (63.8) | 2 | 70.7 % (96.1) | 4 | 64.4 % | 7 | 1 | (1) | 65.5 % |
| | | (2) | 80.0 % (80.1) | 1 | 91.0 % (91.0) | (2) | 10.9 % (31.8) | | | | |
| | | (3) | 79.2 % (79.3) | 4 | 2 | 72.2% | 2 | | 54.9 % (56.2) | | |
| | | (4) | 72.1% (75.1) | | 3 | 83.0 % (94.7) | 3 | | 54.8% (60.6) | | |
| 2 | 1 | 34.1 % | 4 | 85.6 % | 8 | 1 | 80.7 % | | | | |
| | 2 | 60.1 % (62.4) | 5 | 28.4% (55.0) | | 2 | 85.5 % | | | | |
| | 3 | 83.9 % | 5 | 1 | | 77.4 % | 3 | 38.2% (38.2) | | | |
| | 4 | 53.1 % (55.1) | | 2 | | 37.9 % (73.8) | 4 | 53.8 % (55.3) | | | |
| | 5 | 21.9 % (75.9) | | 3 | | 52.0 % | 5 | (1) | 29.0 % (30.7) | | |
| | | 4 | 65.4% (75.3) | (2) | 10.6 % (61.6) | | | | | | |
| | | 5 | 51.2% (51.2) | | | | | | | | |

※ () 内は部分正答も含めた割合

出題の方針

- 1 中学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、中学校数学科の指導内容に即し、数学の基礎的な概念や原理・法則の理解力、数学的な表現・処理能力及び事象を数理的に考察する能力を総合的に評価できるよう、数と式、図形、数量関係の三領域から満遍なく出題した。
- 2 数と式の領域では、数の四則計算や文字を用いて処理する問題を通して、数学全般に関わる基本的な技能の習得状況を評価し、また、問題解決のための立式、計算及び説明を記述させることにより、数学的な思考力、表現力及び処理能力を評価できるようにした。
- 3 図形の領域では、図形の計量や基本的性質に関する証明問題を通して、直観的な見方、論理的思考力、論証能力を評価できるようにした。
- 4 数量関係の領域では、関数や確率の基礎的な問題を通して、関数的な見方・考え方や確率の考え方を評価できるようにした。
- 5 数と式、図形、数量関係の三領域からなる融合問題を通して、事象の中にひそむ関係や規則性を数理的に考察し、数学的表現や処理の仕方を活用して、問題を解決する能力を評価できるようにした。

結果の概要

1 は、各領域における基礎的・基本的な学習内容の理解力及び計算力をみる問題であり、平均正答率は74%であった（昨年度は79%）。全般적으로는良好であったが、8、9、13、14の正答率が60%を割っており、日頃からグラフや図形を描いて考えるなど、各領域における基礎・基本を理解し、処理する能力を身に付けることが必要である。

2 は、二つの領域（図形、数量関係）における理解力及び処理能力をみる基本的な問題であった。1 は二つの三角形が合同になるために必要な条件を自ら選択する問題であり、よくできていた（正答率は83.3%）。2 は確率の問題で、正答率は72.8%であった。その一方で、3 の作図問題は、正答率は46.1%と低かった。作図については、ただ単に描き方（技能）を学ぶのではなく、引いた線の意味や性質を考えながら取り組むことが重要である。

3 は、思考過程や計算過程を論述させることにより、数学的な処理能力をみる問題であった。各問の正答率は1が12.7(25.6)%, 2は10.9(25.5)%であった（()内は部分正答も含めた割合）。

1 は、文章をよく読み、一つ一つ丁寧に処理すれば立式できる問題であった。また、二つの問とも、文字が複数の場合の処理方法（文字を消去し、文字数を減らしていくなど）や、比の形からの変形（内項の積＝外項の積）などを繰り返し用いることで処理できる問題であった。繰り返し練習するなどして、文字式を目的に応じて能率的に処理する能力を身に付けたい。

4 は、図形についての基本的な証明や計量問題を通して、図形領域における論理的思考力をみる問題であった。1 は円周角に関する計量と、三角形の相似を証明する問題であった。大きさの等しい角や長さが等しい辺に印を付けるなど、図形問題を解くときの習慣が身に付いていれば、解法の糸口がつかめたと思う。また、2 は、平面図形を二通りに回転したときにできる立体の体積の差を求める問題であった。計算量が多かったこともあり、正答率が低かった（6.2%）。立体をイメージし考察できる力も大切な能力の一つであることから、日頃から実際に立体に触れ考えるなどして、感覚を研く学習にも取り組みたい。

5 は、二つの動点と、一つの定点と結ぶことによりできる三角形の面積が変化する様子を考えさせる問題を通して、二つの変数の関係を見だし、考察し表現する能力をみる問題であった。1 の正答率は68.0%, 2 (1)は32.2%であり、粘り強く解答する様子がうかがえた一方で、2 (2), 3 は正答率は低かった。

6 は、具体的な事象を数理的に考察し、処理し表現する能力をみる問題であった。1 の正答率が45.1%, 2 が37.1%と、応用力をみるやや難しい問題であったにもかかわらず、よく取り組んでいた。3, 4 は正答率が低く、無答もかなり見られた。

5 や 6 のような応用問題をできるようにするためには、具体的な事象を数学的に処理し、規則性や法則を見だし表現する活動を通して、学ぶことの楽しさや数学のよさを実感させるなどして、子どもたちの学習意欲を高めることが重要である。難しく思われた事象（問題）から、自分で法則性を発見できたときの達成感や充実感は何事にも代えがたい経験であり、この上ない喜びを感じる瞬間でもある。子どもたちがそのような経験のできる取組が各学校において充実されることを望みたい。

<平24>

数 学 学 力 検 査 結 果 集 計 表

(全日制課程10校から1,000名を抽出して集計)

| 問 題 | | 正 答 率 | 問 題 | | 正 答 率 | 問 題 | | 正 答 率 |
|-----|----|--------|-----|-----------------|------------------|------------------|---|-----------------|
| 1 | 1 | 98.8 % | 2 | 1 | 83.3 % (93.8) | 6 | 1 | 45.1 % |
| | 2 | 93.4 % | | 2 | 72.8 % | | 2 | 37.1 % |
| | 3 | 87.1 % | | 3 | 46.1 % (53.9) | | 3 | 1.3 % (5.9) |
| | 4 | 82.6 % | 3 | 1 | 12.7 % (25.6) | | 4 | 0.8 % |
| | 5 | 75.4 % | | 2 | 10.9 % (25.5) | | | |
| | 6 | 90.2 % | 4 | 1 | (1) | 31.1 % | | |
| | 7 | 79.5 % | | | (2) | 12.0 % (52.9) | | |
| | 8 | 56.5 % | 2 | 6.2 % (45.2) | | | | |
| | 9 | 57.9 % | 5 | 1 | 68.0 % | | | |
| | 10 | 77.8 % | | 2 | (1) | 32.2 % | | |
| | 11 | 64.5 % | | | (2) | 13.4 % (25.3) | | |
| | 12 | 73.6 % | 3 | 0.7 % | | | | |
| | 13 | 57.5 % | | | | | | |
| | 14 | 37.8 % | | | | | | |

※ () 内は部分正答も含めた割合

出題の方針

- 1 中学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、中学校理科の指導内容に即し、第1分野（物理的領域、化学的領域）、第2分野（生物的領域、地学的領域）の2分野（4領域）の学習内容から偏りなく出題した。
- 2 身近な現象や日常生活との関わりの深い内容を取り入れ、自然の事物・現象についての基礎的・基本的な知識・理解及び関心をみるようにした。
- 3 基礎的な観察、実験についての知識・技能をみるようにした。
- 4 観察、実験を通して、自然の事象を科学的に調べ、実証的、論理的に考察する力をみるようにした。
- 5 自然の事象を科学的に調べた結果を、的確に表現する力をみるようにした。

結果の概要

1 は、小問集合であり、幅広い分野からの出題である。自然の事物・現象、観察・実験に関する基礎的な知識・理解及び関心をみるようにした。選択問題の平均の正答率が62.7%、記述問題で62.4%であった。2の問題は他の問題に比べて正答率が43.9%と低かった。「沸点」の意味を正確に理解し、普段目にする物質の状態からそれを考察することが求められる。また、7の問題では、「溶質」、「溶媒」、「溶液」などの基本的な科学用語の違いを理解することが大切である。

2 は、植物のなかま分けに関する問題である。身近な植物をよく観察しているか、また、なかま分けをする際の植物の特徴を理解しているかをみるようにした。2の被子植物のなかまの特徴を文章で表現する問題は正答率が42.7%と5割を下回った。理科においても、重要事項を簡潔に表現する能力が求められる。3は移行措置の内容を含む問題であったが、7割を超える正答率であった。

3 は、電気分解と電池の実験を通して、物質の性質や電池の原理を問う問題である。2の問題では、うすい塩酸を電気分解したときの電極での反応及び見られる現象をよく理解した上で、それぞれの電極で発生する気体の性質について、考えることが必要である。

4 は、冬と夏の日本付近の気圧配置図から、気象現象を考える問題である。2の問題では、低気圧の発生の仕方、3の問題では前線付近での寒気と暖気の配置などについて問い、気象に関する基本的な事項についてみるようにした。4においては7割近い正答率だった。寒冷前線が通過した後どのようなことが起きるのか、気圧配置図からの読み取りが良くできていた。日頃から、新聞やインターネットなどで天気図に親しんでおくことも大切である。

5 は、おんさやモノコードの実験を通して音の性質について考える問題である。1については、図2と図4のグラフの違いをしっかりとらえ、振動数と音の高低の関係を考えることが必要である。また3でも、グラフを正確に読み取り、与えられた条件から計算する力が問われる。普段の実験においても、グラフからわかることをまとめるなど、グラフを活用する力を付けることが大切である。

6 は、地球の公転と星や月の見え方を問う問題である。正答率は、1では27.6%、3では20.9%と低かった。1においては、冬の代表的な星座であるオリオン座の位置などを手がかりにして、地軸の傾きを考えていかなければならない。教科書をそのまま覚えるのではなく、論理的に考察することが求められる。3においては、星は非常に遠くにあることに注意し、図1のような模式的な図から実際の天体の配置が想像できるようになると良い。

7 は、マグネシウムの酸化に関する実験を通して量的関係を問う問題である。1では、化学式を正確に記述することが求められる。普段から化学式におけるアルファベットの大文字や小文字、数字の意味などを考えながら記述することを心がけたい。また、2や3では、実験操作の意味を考慮することや、結果を正確にグラフに表すことが求められる。グラフ用紙への点の打ち方や線の引き方などグラフの描き方を理解することが大切である。

8 は、食物に含まれる主な成分の消化に関する問題である。1では、正答率が13.7%と低かったが、中間点を含めると55.0%であった。試験管に入った液体を加熱するときの注意をよく理解する必要がある。2では、7割近い正答率であり、実験(1)の内容がよく理解できていたと考えられる。4においては、脂肪の消化を助けるたん汁について、その生成場所は誤りやすい箇所であるので注意したい。

9 は、斜面を下る台車の運動と電磁誘導に関する融合問題である。2の問題では、正解のウの正答率が51.2%であったが、アを選んでしまった受検者も見られた。速度が速くなるにつれて斜面方向下向きの方が大きくなるようにも思えるが、実はそうではない事に気づかなければならない。3では、正答率が39.3%であった。実験で起きている現象を論理的に解釈することが大切である。4は、力学的エネルギーの知識が必要となる。理科においては、一つの現象について、複数の単元からの知識を関連させて理解することも必要である。

(全日制課程10校から1,000名を抽出して集計)

| 問 題 | | 正 答 率 | 問 題 | | 正 答 率 | 問 題 | | 正 答 率 | |
|-----|---|------------------|------------------|------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|
| 1 | 1 | 63.6 % | 3 | 2 性質 | 63.8 % (65.5) | 7 | 3 | 47.4 % (53.9) | |
| | 2 | 43.9 % | | 3 | 45.8 % | | 4 | 18.2 % (19.8) | |
| | 3 | 59.9 % | 4 | 1 | 55.4 % | 8 | 1 | 13.7 % (55.0) | |
| | 4 | 83.3 % | | 2 | a | | 44.6 % (48.3) | 2 | 67.9 % |
| | 5 | 62.7 % (67.6) | | | b | | 63.9 % (66.0) | 3 | 61.7 % |
| | 6 | 82.1 % (83.1) | | 3 | 45.3 % | | 4 | 消化 | 41.2 % (43.2) |
| | 7 | 50.0 % (57.1) | | 4 | 69.5 % | | | 器官 | 30.5 % (34.7) |
| | 8 | 58.4 % (58.7) | | 5 | 1 | | a | 53.8 % (63.6) | 9 |
| 2 | 1 | 71.0% | b | | | 75.8 % | b | 78.0 % (78.0) | |
| | 2 | 被子 | 50.0 % (54.9) | | 2 | 65.6 % | c | 65.2 % (65.2) | |
| 3 | | なかま | 42.7 % (46.3) | 3 | 45.6 % (53.4) | 2 | 51.2 % | | |
| | 3 | AB | 71.1 % (78.6) | 6 | 1 | 27.6 % | 3 | 39.3 % | |
| 3 | | CD EF | 72.6 % (76.2) | | 2 | 40.9 % (43.3) | 4 | 41.9 % | |
| | 1 | 85.8 % | 3 | | 20.9 % | | | | |
| 3 | 2 | 電極 | 59.0 % | 7 | 1 | 45.4 % (55.1) | | | |
| | | 気体 | 47.0 % (47.3) | | 2 | 43.2 % (60.2) | | | |

※ () 内は部分正答も含めた割合

英 語

出題の方針

- 1 問題の内容が中学校学習指導要領の趣旨に沿うものとし、聞く、話す、読む、書くことの言語活動の4領域にわたって出題するように努めた。
- 2 中学校学習指導要領に示されている基礎的・基本的な内容について、多く出題するようにした。
- 3 聞く力については、話されることの内容を聞き取る基礎的な力を主としてみるようにした。
- 4 表現する力については、与えられた場面やテーマに沿って英語でコミュニケーションを図る力をみるようにした。
- 5 読む力については、比較的長い文を読み、書かれていることの概要や要点を文脈に沿って読み取る力をみるようにした。

結果の概要

1 は、身近な事柄を素材にして、音声によるコミュニケーション活動を扱った聞き方の問題で、3問構成とした。問題全体の平均正答率は、67.4%であった。1は短い英文を聞いて適切に応答する力をみる問題である。4問の平均正答率は77.0%であった。2は英語の対話を聞いて、内容を理解する力をみる問題であり、各小問ごとに設問2つに答える形式である。正答率の平均は65.9%であり、各小問の平均正答率は(1)が67.8%、(2)が69.7%、(3)が60.4%であった。3は聞き取りの内容を相互に関連づけて理解する力をみる問題であり、5問の平均正答率は61.5%であった。話された英語を聞いて、具体的な内容や大切な部分を聞き取る力の育成が望まれる。必要とする情報を聞き分けることも必要である。今後もコミュニケーション能力を育成するという観点から、聞く力を高めていくことは大切である。

2 は、基礎的・基本的な事項についての理解度をみる問題である。動詞の時制や基礎的な応答などを素材にしている。9問の平均正答率は77.1%であり、5の31.1%を除き、基礎的・基本的な事項についての定着がうかがえた。今後とも英語力の支えとなる基礎的な文法事項については、確実な定着を心がけてほしい。

3 は、対話の流れを把握しながら要点を捉える力をみる問題で、異文化理解をテーマに出題している。今年度は日本とドイツにおける週末の過ごし方の違いや誕生日に関する異なる習慣と共通した人々の思いについて話題にした。3問の平均正答率は69.2%であった。1の指示語の内容を答える問題は、正答率が27.0%であった。2、3の文脈から概要を捉えて解答する問題は、それぞれ正答率82.4%、84.8%であった。

4 は、書くことによって表現する力をみる問題である。言語の実際の使用場面により近い題材及び場面設定となるようにしている。1は英語の授業の中で友人を英語で紹介する問題である。小問2問の完全正答率の平均は38.9%であり、中間点を含めると63.0%であった。2は絵をヒントに文脈から判断して、適切な英語で表現する力をみる問題である。小問2問の完全正答率の平均は29.3%であり、中間点を含めると51.7%であった。具体的な場面や状況を把握し、適切な表現を自ら考え書くことが求められる。3は、与えられたテーマについて表現する力をみる問題である。今年度は、好きな季節とその理由をテーマとした。完全正答率は12.5%であったが、中間点を含めると86.7%であった。今後も、書くことについては、自分の気持ちや考えを相手にわかるように伝える力を育成することともに、言語材料についての理解の定着を確実に図ることによって、英文の構成力・表現力を身に付けることが重要である。

5 は、物語文による読解問題であり、文脈に沿って内容を理解する力、概要や要点を捉える力をみるものである。今年度は、飼い犬との交流やすれ違いを通して、他者を思いやることの大切さに気付いた中学生の心の成長を描いた話を題材にした。4問の平均正答率は38.3%であった。1は、文中から、主人公の心情を捉え、日本語で具体的に説明する問題である。英文の中から適切な部分を見つけて、内容を説明できる力を高めることが大切である。

6 は、説明文による読解問題である。今年度は私たちの生活において身近で重要な塩をテーマにした。4問の平均正答率は43.2%で、中間点を含めると54.4%であった。まとまった英文を読んで、要点を捉え、概要をまとめる力を身に付けることが大切である。

(全日制課程10校から1,000名を抽出して集計)

| 問 | | 題 | 正答率 | 問 | | 題 | 正答率 | 問 | | 題 | 正答率 |
|---|-----|------------------|------------------|--------|------------------|------------------|------------------|--------|------------------|------------------|------------------|
| 1 | 1 | (1) | 90.0 % | 2 | 1 | 87.3 % | 4 | 1 | (1) | 36.8 % (54.5) | |
| | | (2) | 90.8 % | | 2 | 90.1 % | | | (2) | 40.9 % (71.5) | |
| | | (3) | 88.0 % | | 3 | 81.8 % | | 2 | (1) | 32.8 % (49.0) | |
| | | (4) | 39.3 % | | 4 | 78.5 % | | | (2) | 25.7 % (54.3) | |
| | 2 | (1) | ① | | 73.7 % | 5 | | 31.1 % | 3 | 12.5 % (86.7) | |
| | | | ② | | 61.9 % | 6 | | 92.1 % | 5 | 1 | 27.6 % (75.8) |
| | | (2) | ① | | 81.4 % | 7 | 83.7 % | 2 | | 16.3 % (59.2) | |
| | | | ② | | 57.9 % | 8 | 88.1 % | 3 | | 10.1 % (33.8) | |
| | | (3) | ① | | 72.4 % | 9 | 61.3 % | 4 | | 68.8 % | |
| | ② | | 48.3 % | | 3 | 1 | 27.0 % (73.7) | 1 | 17.5 % (32.9) | | |
| | (1) | (1) | 64.3 % (70.1) | 2 | | ① | 79.5 % (82.3) | 2 | 36.0 % (52.5) | | |
| | | (2) | 91.7 % (91.9) | | | ② | 85.3 % (86.9) | 3 | ① | 39.7 % (63.1) | |
| | (3) | 66.5 % (69.0) | 3 | 84.8 % | ② | 77.3 % (78.0) | 6 | | 4 | 45.3 % | |
| | (4) | 23.0 % (46.5) | 3 | (1) | 62.1 % (71.4) | | | | | | |
| | (5) | 62.1 % (71.4) | | | | | | | | | |

※ () 内は部分正答も含めた割合